

岡山県養豚振興施策について

岡山県農林水産部畜産課

1 全国の養豚情勢

平成22年度の全国の豚の飼養戸数は6,010戸、飼養頭数は9,768千頭となっています。10年前の平成12年度は戸数11,700戸、頭数9,806千頭であり、戸数は49%の減少となっていますが、頭数はほぼ横ばいで推移しており、1戸当たりの飼養頭数は、約2倍の1,625頭にまで規模拡大が進んでいます。

岡山県内においても同様の傾向が見られ、飼養戸数は平成12年度の60戸から、平成22年度では29戸に減少していますが、1戸当たりの飼養頭数は平成12年度の560頭から1,440頭へと規模が拡大しています。

豚肉生産量は、平成5年度から100万トンを超える量には至っていませんが、近年、サーコウイルスワクチンの普及等により生産性の向上が図られ、ここ数年は90万トン前後で安定推移しています。

2 本県の養豚施策

(1) 岡山県養豚振興計画について

平成23年3月に策定した岡山県養豚振興計画では、生産体制の整備や、安全安心で特色ある県産豚肉を安定供給するため、長期的な生産目標の設定と、その達成に向けた諸施策への取組について定めています。

ア 基本方針

平成32年度の出荷肉豚目標を82,000頭とする。

「おかやま黒豚」については、更なる産地力強化を図り、繁殖基盤の拡大と生産性の向上を図り、出荷頭数7,000頭を目標とする。(表1のとおり)

(単位：頭数)

区 分	全体	
		うちパークシャー種
現況(H20)	64,337	3,462
目標(H32)	82,000	7,000
増 加 率	127%	213%

[表1 県産肉豚出荷頭数の現状と目標]

注：①現況値は農林水産省「畜産物流通統計」及び畜産課調べ。

②目標頭数は次により算出。

(繁殖母豚×離乳頭数×分娩回数×事故率)

L W D 等：3,300頭×10.4頭×2.3回×94%≒75,000頭

パークシャー種：1,390頭×8.1頭×2.2回×94%≒7,000頭

イ 銘柄化の推進と販売戦略

消費者に高品質な県産豚肉を安定的に供給するとともに、生産者の経営安定と産地育成を図るため、岡山県産豚肉消費促進協議会を通じた県産豚肉の銘柄推進及び普及活動を推進する。

ウ 必要施策の展開

養豚経営に意欲を持って取り組む後継者等の担い手に対して、適切な指導と補助事業、制度資金等の積極的な活用を推進する。

(2) 養豚振興計画達成に向けて展開している施策事業について

ア 県有種豚導入事業

豚改良増殖を推進するため、農林水産総合センター畜産研究所への優秀種豚の導入を行い、県内農協等に改良増殖した種豚候補の子豚及び人工授精用精液の供給を行っています。

イ おかやま黒豚等産地づくり推進事業

「おかやま黒豚」の産地化・生産集団の組織化を図るため、農家への黒豚繁殖種豚導入や簡易施設整備に対する助成を行っています。

ウ 肉豚価格安定事業

肉豚価格の変動が養豚経営に及ぼす影響を緩和するために、豚枝肉の取引価格が保証基準価格を下回った場合、生産者と国とで造成される基金から、その差額の8割を補填する事業に対し、県内生産者が拠出する負担金助成を行うことにより、経営安定化を図っています。

また、本基金事業については、今年度から（独）農畜産業振興機構が基金を管理し、生産者へ補填金を直接交付する「直接交付方式」に変更されました。

なお、今後、国関係事業については、この「直接交付方式」とされることが予想されますので、生産者の皆さまにおかれましては情報の収集に努め、各種補助事業を有効に活用していただきたいと思います。

エ 県産豚肉の消費拡大対策

県産豚肉の流通対策として、流通団体及び生産者団体等で構成する銘柄推進団体を通じた県産豚肉の銘柄化及び消費拡大活動の支援を継続して行います。

また、昨年、関係団体とともに立ち上げた「岡山県産食肉地産地消推進会議」においても精肉店などの専門店はもとより、今後は産直市や道の駅などにも対象を拡げて地産地消に対する普及啓発活動を展開します。

3 おわりに

豚肉の需給動向については、昨年度の宮崎県で発生した口蹄疫や、本年3月に起こった東日本大震災など予期せぬ出来事により、肉豚価格は乱高下を繰り返しており、今後も推移を注視する必要があると考えます。。

豚肉の消費動向としては、対前年5%増で推移しており、今後も堅調な需要が見込まれるものと予想されています。

一方、穀物市場への投機資金の流入や、米国を中心としたトウモロコシのバイオエタノール需要等により、配合飼料価格は上昇傾向にあり、為替は円高にあるものの、高騰前の価格まで下がる気配はありません。

更に今後の WTO、FTA 交渉や、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）の行方など、予断を許さない状況にあります。

岡山県としては、「岡山県養豚振興計画」に基づき、より一層の生産コスト低減を図るため、飼料米等の飼料資源を活用することや、県産豚肉のイメージアップを図るために、生産者の顔が見える「安心」を消費者に提供することにより地産地消による消費拡大運動を推進していきます。

また、東アジア地域の富裕層をターゲットとした対外戦略を進め、マーケティング情報等の収集や海外の消費者への PR などを行って販売拡大を図るなど、積極的な施策を展開し、県内養豚産業の発展と養豚農家の経営安定化を図っていきます。